ボランティア用

**被災地障がい者センターみやぎ**

**について**

**ガサっと知ってもらうためにつくりました～**

＊この冊子は、新たにボランティアに加わる方が、

ざっと状況を把握するのに使っていただけるよう、

作成しました。

コミュニケーション促進のきっかけにでも

なればと思っています。

私たちが向き合っている現実は、日々変化しています。

私たちの活動も、日々、変化します。

はじめから答えがないことばかり、

「やってみて修正する」ことの連続です。

*おおらかに、たくましく、本質に目を向けて、混沌を楽しみながら、*

*一緒にやっていきましょう。*

**成り立ち～現状**

**「被災地障がい者センターみやぎ」　の母体となる活動**

阪神・淡路大震災を機に、被災した障がい者を支援する団体として、震災の5ヶ月後から「ゆめ風基金」運動が発足。その後、2001年にNPO法人格を取得、自然災害の被災障がい者への救援・支援をつづけてきている（これまでの支援は台湾大地震、東海豪雨、鳥取地震、十勝沖地震などなど累計39,074,009円）。

**3.11以降の歩み**

大阪・東京などで障害者団体が集まり、

**東日本（東北関東）大震災障がい者救援本部**を立上げる

　↓

宮城 (仙台) に拠点　←大阪から拠点づくりの先発隊が入って、CILたすけっとの事務所を間借りし、**「被災地障がい者センターみやぎ」**スタート

福島（郡山）に拠点　←東京から拠点づくりメンバーが入って、**「被災地障がい者センターふくしま」**スタート。日本障害フォーラム（JDF）と事務所スペースを共有して活動している。

岩手（盛岡）に拠点　←CIL盛岡と協力して、「被災地障がい者センターいわて」スタート

**「被災地障がい者センターみやぎ」　これまでの動き（4月20日現在）**

・郵送によるアンケート調査　500通発送

・電話調査　75件（沿岸部はほぼ終了）

・救援物資配送・配達　（4月中旬で150件以上）現在、電話による追跡調査中

・現地調査（避難所、NPO、物資要望者宅などを訪問、状況調査）

・調査で上がったニーズに対する、応急的な人的＆物的支援

・連携できそうな団体や個人の開拓

**「被災地障がい者センターみやぎ」構成団体**

CILたすけっと／きょうされん宮城支部／NPO法人麦の会　コッペ／NPO法人　ワーカーズコープ／ピアサポートセンターそら／NPO法人みんなの輪　わはわ宮城野／宮城精神しょうがい者団体連絡会議／NPO法人　ぐる～ぷゆう／NPO法人　アフタースクール・ぱるけ／BNETCLUB／宮城県社会保障推進協議会／ゆにふりみやぎ／共育を考える会／NPO法人フルハウス　フリースペースソレイユ／NPO法人　ドリーム・ゲート

**「被災地障がい者センターみやぎ」が行う支援について**

***まず初めに、***

***私たちの活動は、「ゆめ風基金」運動があってはじめて成り立っています。***

「ゆめ風基金」は、阪神淡路大震災の時に、障がい者自身が普段の助け合いネットワークを活用し、いち早く炊き出しを実施したことから始まりました。この心意気に後押しされた多くの人が関わり、被災地の障がい者支援のための日ごろからの備えとして、「ゆめ風基金」運動が発足したのです。そして今も、東日本大震災の被災地の障がい者支援のために、各地で障がい者が陣頭にたって街頭募金を続けています。

***→程よいタイミングがきたら、「ゆめ風基金」運動について、「被災地障がい者センターみやぎ」について伝えていきましょう。***

***→一緒に活動をしていけそうな、元気な障がい者を探しましょう***

***私たちの活動は、全国の賛同者の「こころ」をお預かりして、被災地にいる障がい者への支援を行うものです。原則、支援の対象は「障がい者」です。***

これは、「障がい者手帳を持っているかどうかで線引きし、支援をする・しないを決定する」ということではありません。実際には、ケースバイケースで対応していきます。

**「被災地障がい者センターみやぎ」が大事にしている支援の方向性**

◎顔と顔がつながっている関係での支援

・支援の要望があがってきたら、まずは顔を合わせて話を聞く。

◎お金の使い方・支援の考え方

・国（行政）がやることの肩代わりではない。なので、行政がするべき支援がされていない場合、すべてやってしまうのではなく、その理由の把握に務める。行政が動くまでのつなぎをするなど。

・行政の目の行き届かないきめ細やかなサポート。フットワーク軽く対応。

・現金を渡すよりは、生活に必要な物資をなんでも運びます的な方向。

◎当事者主体

・支援者と当事者の視点は異なることを頭に置いておく。そして、当事者の意志に重きを置く。

◎もれてしまうケースに目を向ける（他団体の活動とのすみ分け）

・小さな規模の活動や孤立している障がい者に目を向ける。例えば、社会福祉法人よりは、無認可作業所やNPOなど。

・個人で家に孤立している可能性があるので、聞いて回る。

◎地域という視点を大事に

・障がい者グループに属している人は、できるだけ、そのグループの中での相互扶助の可能性をさぐる。

・地域の支援の輪につなげる。または、つながるまでの「つなぎ」。

* 体当たり

◎長期的視点

・多くのボランティア団体が、一時の支援のみで解散することになるだろうと思われますが、「被災地障がい者センターみやぎ」は、長期的視点で取り組みます。

「被災した障がい者のニーズを掘り起こすことは、新たなニーズを掘り起こすことになります。私たちの活動の目標は、「復興」ですが、「復興」とは、もとに戻すことではなく、災害を経て、今後災害に強い街を作っていくことです。」

そのために、

・個々人のニーズに対応すると同時に、地域の状況の把握をしていく。

・被災している障がい者のうち、震災前にどのような生活をしていた人が孤立しやすいのか、その地域の福祉行政の現状や当事者活動の状況などを検証する視点も重要です。

被災した障がい者のニーズを掘り起こすことは、新たなニーズを掘り起こすことにつながります。私たちの活動の目標は「復興」ですが、「復興」とは、単に「もとに戻す」ということではなく、災害を経て明るみに出た問題を受け止め、災害を経て、今後、より災害に強い街を作っていくことです。

**≪注意事項≫　ボランティア活動に入る前に**

*「被災地障がい者センターみやぎ」は、いつかは解散します。しかし、「CILたすけっと」は、この地でずっと活動を続けていきます。「CILたすけっと」がこれまでの活動から築いてきた信頼を、ボランティアの皆さんの行動で壊すことのないように、各自自覚して行動してください。*

・ボランティア活動中は「被災地障がい者センターみやぎ」を名乗ってください。

・ボランティア活動中は、「被災地障がい者センターみやぎ」の名刺を使用してください。個人の名刺は使用しないでください。

・活動を通して得た情報は、外部には漏らさないように。守秘義務を守ってください。

・調査活動で知りえた情報は事務局（地域担当者）に伝えてください。また、支援の方向性や連携についての判断は原則として事務局が行うことを念頭にいれて行動してください。

・私たちと似たような活動をしている団体に、JDF (日本障がいフォーラム)があります。間違えられることもあるかもしれません。その場合、協力関係にあるが、別の団体であることを伝えてください。

＊被災地での活動は、肉体的にも心理的にも厳しいです。ご自分のペースを第一に！

＊調査中に危険だなと思ったら、勇気をもって引き返す、疲れたなと思ったら休みをとるなど、自分を大事にしてください！

＊沿岸部に行く場合は、潮見評もチェック！　満潮時に、冠水する場所があります。

＊ウィルス性肺炎が流行っているようです。マスクをするなど、気をつけてください！

（地震と津波の影響で、沿岸部に様々な物質が打ち上げられた等の影響？ともいわれてます）

・食事の支給ポリシーやゴミの出し方などは、ボランティアへの伝言版（壁）を参照。

・分からないことは、先に入ったボランティアさんに聞きましょう。また、古くからいる人は新しく入ってきた方へ、どんどん教えてあげてください。

**＊ボランティアの活動時間:原則、9時から18時です。ただし、担う役割によって変わりますので、そのおつもりでお願いします。**

***調査先で聞くこと（報告書に書くこと）***

基本的な枠組みとしてあくまでも参考として使用してください。マニュアルにしばられずに。

細かいノウハウや疑問については、先輩ボラや地域担当者にどんどん尋ねてください。抱え込まずに！

**個人**－親（周囲）の意見と本人の意見の食い違いは多いので注意！

・本人の状況（障がいの種類と重度・生活の状況）

・家族や関係者の状況

・急ぎのニーズ「とりあえず、困っていること」

・今後、どんな支援が必要か

*可能だったら、*

*・相手の連絡先、住所*

・震災前の生活状況、サービスの受給状況、

左記の項目に加えて、

訪問日時・個人名・連絡先（住所・電話）を簡潔にまとめて報告書に記入

（現地で調査を終えたら、すぐその場で書く）

・ポイントフォームでOK

・気になったことは、（その他）としてメモ書き

**避難所**

本部で

・障がい者がいるかどうか（名前と障がい名）

・本部がどの程度、障がい者を把握しているか

・本部の障がい者対応の状況（障害を考慮した避難生活を提供orその努力をしているか）

目のつけどころは、保健師・看護士はいるかor巡回しているか、避難所のリーダーはだれか？など人間関係にも着目

左記の項目に加えて、

訪問日時・住所・本部（担当者）の印象・避難所の状況などを簡潔にまとめる。

**市町村の障害福祉課・保健福祉センター・社協　等**

左記の事柄のうち聞けたことと、

訪問日時・住所・担当者名・担当者の印象を簡潔にまとめる。

・震災後の障がい者の生活状況を把握しているか

ニーズを把握できているか、対応ができているか

・地域の福祉状況

目のつけどころは、社協中心・社会福祉法人中心か、当事者活動があるかどうか、キーパーソンはいるか

**事業所（NPO・社会福祉法人）**

左記の事柄

＋　今後、連携可能な分野があるかどうかの意見などを簡潔にまとめる。

・被害状況

・とりあえず困っていること

今後の連携の可能性を探るために、

行っている支援の方向性に関しての情報収集できたらする

 ***話はじめのコツ***

「私たちは、被災した障がい者の支援をしている『被災地障がい者センターみやぎ』の○○です。

『被災地障がい者センターみやぎ』は、宮城県内の14県の団体で構成されており、CILたすけっとに事務局をおいて活動しています。

金銭的なバックアップは、「ゆめ風基金」からきています。

「ゆめ風基金」は、阪神大震災の後に、被災地の障がい者を支援するための備えを日ごろからしておこうという目的で作られたものです。これまでに、たとえば、東海豪雨、鳥取地震、十勝沖地震の時などで、被災地の障がい者の支援を行ってきています。

*＊「『被災地障がい者センターみやぎ』設立について」のプリントや、ビラを見せながら話すと相手にわかりやすいです。*

障がいを持っている方で、今回の震災を受けて、何か困っている状況にある方、ご存じでしたら教えていただきたいのですが。

この避難所で、障がいを持っている方、いらっしゃいますか？

車いすの方以外でも、日常の生活に困難を抱えている方、また、知的障害や精神障害などで、避難所にいることが難しい状態の方などがいらっしゃるようだったら、教えていただきたいのですが。

*具体的な支援を求められて、答えに困った時*

状況を詳しくお聞かせいただけませんか？

事務局に持ち帰って検討したいので、状況を詳しくお聞かせいただけませんか？

***挙がってきたニーズに対する対応（具体的支援の内容）***

***物品の要望の場合「○○がほしい」***

以下の1.と2.について考慮した上で、事務局に電話を入れて相談ください。

（ただし、□内にあげるものであれば即答してOKです。）

1. 要望している物品が自治体の提供しているサービスにあるかどうか、すぐにつなげられるかどうか。

→サービスにあって、すぐにつなげられる場合はそちらにつなげる。

　→本来、行政が対応すべきことであれば、提案・改善を求めるなど

（**わからなければ、一度事務局に（地域担当者）に電話をください**。）

1. 言えばなんでもくれる団体、もらえるものなら何でももらおう、というような勘違いをしていないかどうか（これは、話せばわかると思います）

→勘違いされているようであれば、「被災地障がい者センターみやぎ」について説明し断ります。

**「即答してよい物品」**

・障がいニーズにかかわるもの（カテーテル、おむつなど）

・命にかかわるもの

・衛生用品・洗剤など、　・衣類　　・食物

***その他の支援***

・原則として、個人に対する金銭の支援はしません。

「被災地障がい者センターみやぎ」で対応するか、他の団体を紹介またはコーディネートするなどして、対応します。

**まずは、地域担当者に相談**

買い物に行きたい、

一か月以上入浴していない

緊急的に避難が必要

長期的に住む場所の問題

などなど

裏面に、どのような活動団体があるかのリストをあげてありますので、**参考までに見てください**。

障がい者が元気な方で、自分でコンタクトしてみるというようであれば、これらの情報をお渡し

するだけでもよいでしょう。

**＊元気な障がい者に出会ったら、しっかり連絡先をとっておいてください！！**